

ホタテガイ 養殖管理情報

ケガをすると異常貝になるので
シケの多い冬は施設を安定させましょう

1 ホタテガイのへい死メカニズム

- (1) 玉付けをし過ぎた養殖施設は、波浪の影響を受けやすく不安定な状態となります。さらに、調整玉を連結した部分の幹綱や籠は、上下に振られやすくなります(図1)。
- (2) 1週間以上シケが連続し、餌を取りづらくなると、小さい貝ほど弱って貝殻を閉じられなくなるため、貝同士のかみ合わせや籠への擦れが多くなり、外套膜(ヒモ)がケガをし、異常貝となります(図2)。
- (3) 鰓(エラ)が傷害を受けると、“ワタ抜け”になり、満足に呼吸や餌を取ることができなくなります。
- (4) 軽傷であれば回復しますが、“ワタ抜け”や重傷の異常貝はへい死に至る危険性があります。
- (5) 水温が低いと、餌を取り込む力が弱まり、へい死の危険性がさらに高まります。

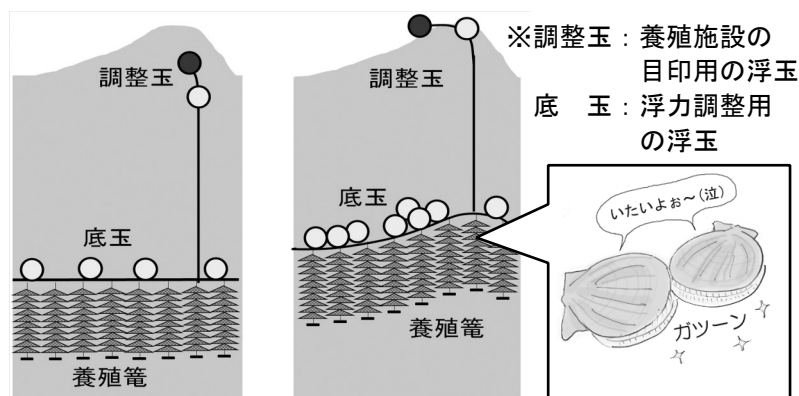


図1 安定した施設（左）と不安定な施設（右）におけるホタテガイのぶつかり合い

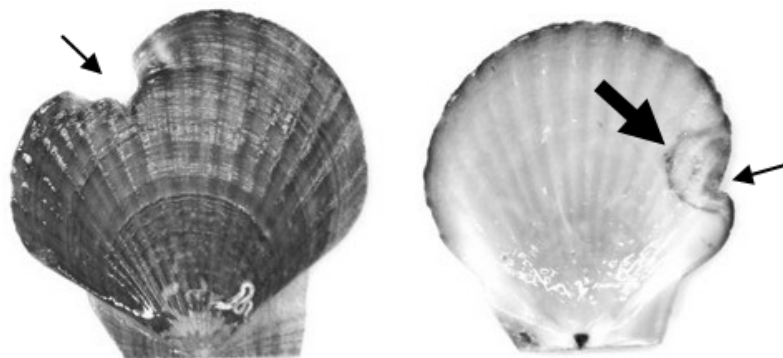


図2 異常貝（細い矢印は「欠刻」、太い矢印は「着色」）

2 冬季における養殖管理の注意点

異常貝の原因は病気ではなくケガです。これから冬のシケが多くなるので、ケガのない元気な貝を育てるために、養殖施設の管理にあたっては以下の点に注意しましょう(図3)。

①調整玉の箇所数を少しでも減らす

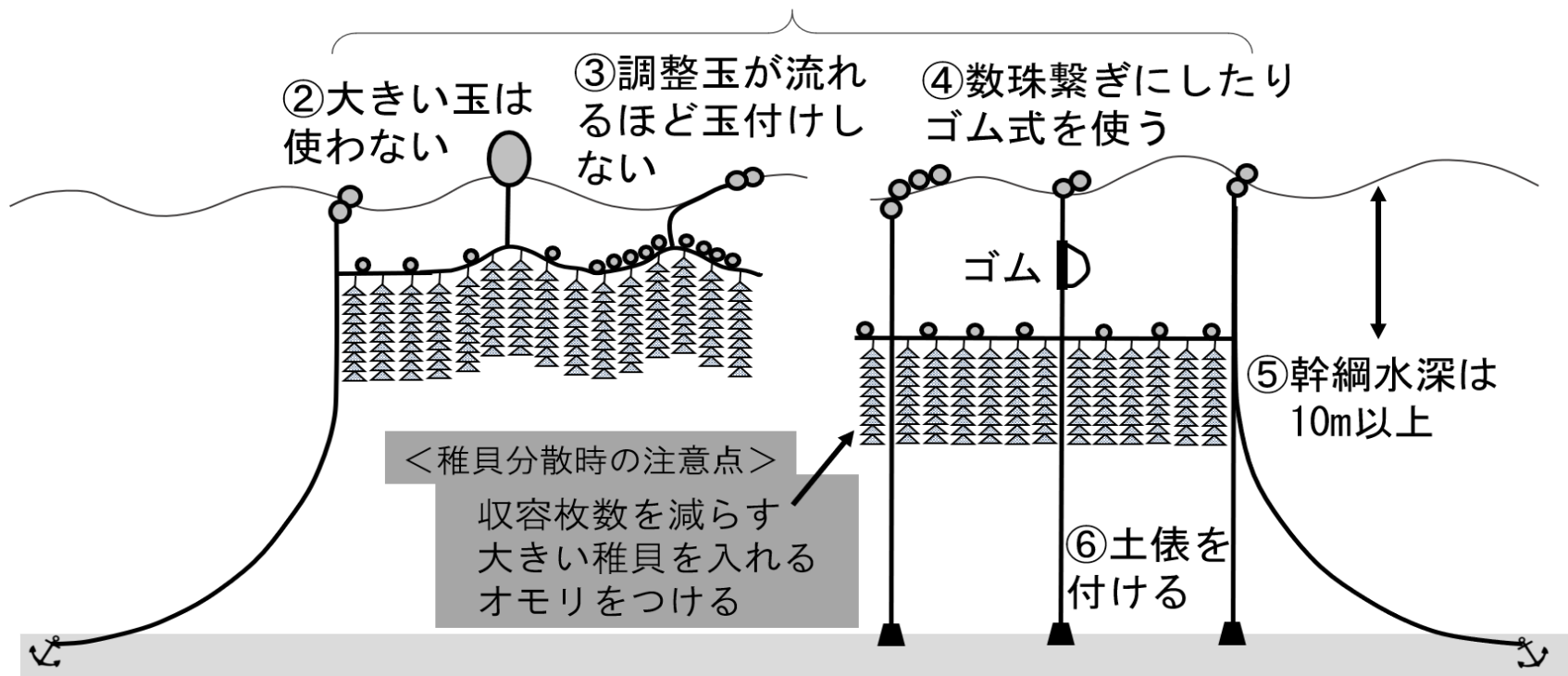


図3 養殖施設のイメージ（左が不安定施設、右が安定施設）

